

觀世流改訂儒本

內一

高砂
田村
江口
祖女
鵜飼

明治四十三年七月十日印刷
明治四十三年七月十五日發行

訂正者、檢印
ナキモノハ偽版也

東京市麹町區中六番町二十九番地

訂正兼
發行者

丸

岡

桂

東京市下谷區二長町壹番地

印刷者

塚原錦三郎

東京市下谷區二長町壹番地

印刷所

凸版印刷株式會社

東京市麹町區中六番町廿九番地

發行所

觀古流改訂本刊行會

電話番町二五四番

文學博士

井上秋国

本文監修

丸岡桂

本文訂正

親世清定

節附訂正

真之脇能

高砂

正月

前子
 ツレ
 後シテ
 ワキ
 中
 松ノ精尉
 松ノ精姫
 佳吉明神
 神主

ワキ坂
三ツヨク
ウ
今を
め
旅
夜
く
日
も
行
来

其之其之其之

後の國阿蘇^{アソ}の宮に神主^{カンヌシ}を成^{ナリ}とわ

が事あり。われいまだ都を見むの程

2. 沢度思ひ立ち^ホそり^ホふ^ホ又よ^ホあ^ホ

ついでなほ播州・沙井浦を一見

せむやとなぐい旅衣まをく
新踏とくけ魚ひなつ浦は良船
踏のどけき春風の幾日かぬらん跡
まもいさ白雲れさうくこも思ひ
播磨高砂の浦よ恋あふなり
上りて
真一
高砂れ松の春風吹
きられて尾上の鐘も響くなり

ツレニ
は霞の磯ぐれ。音こそ潮に満
干あれ。作とも知らんよせん高
砂の松も昔れ友あそで。思あ
せといふ雪の積りくもむれ鶴
のねぐらよ残る有羽れ。春の霜夜の起
居よも松しとの又聞きあれて。心を友
と。思ひを述ぶるぞあり

上
 音づれ松とさう海辺の落葉衣
 上
 袖そへては霞の塵をわうよく
 上
 雲の萬砂のく尾ふの松も年々
 上
 て。老の波もさうさやなれ下る落れ
 上
 花義あつあるまで命なごうへて
 上
 花りもさうお生れ松。そのもさうさ
 上
 花所さうさう！ 里人と相待つ家よ。

未だ文様事なり。いふはうゝあるむ人
 又尋ねるはうゝいふ^{ニテ}いふはうゝなる事なり
 いふ事なり。いふ^早高砂は松とい
 いふの事なり。いふ^{シテ}いふはうゝなる事なり
 清めたるうゝ砂の松なり。いふ^{フキ}高
 砂の江に松は相生ふ石あり。當所^{トオ}
 といふ事なり。國を隔てたるは。いふ^{シヨ}相

生の松と申すぞ 伝^{シテ}せの如く古今^{コキン}

の序^ミは高砂^{タカサ}の江の松もあひあひ

けものゝやとあひなづる。秋射

津の國信吉^{ノリタカ}者^{モノ}のあつ焼^{ヤキ}こそ常

所^{トコロ}は人^{ヒト}あり知るやあつ中^{ナカ}さな入^イ

外^{ソト}もや見^ミぬ老^{オシ}人の吏^シ将^{シャウ}一^{イチ}所^{トコロ}は

ありなづる。素^ソもいはれは高砂^{タカサ}の浦^{ウラ}

山國を隔てまむと。いふにあり。ず
や。らん。な。て。れ。に。せ。ら。や。心。萬
里を隔つるも。たゞい。は。通。ふ。心。づ
ひ。の。様。ぞ。け。通。い。通。う。も。ま。う。
案。づ。も。ま。は。ん。ぜ。な。高。砂。石。の。に。の。
松。の。非。情。の。も。れ。だ。ま。も。相。生。し。名。い。あ。
つ。ぞ。め。ま。う。て。や。生。あ。る。人。と。し。て。

年々くもいさなり。面ひなれたる母
と妹^{ムスメ}松^中もろろもよ。江平まで相生
のま棒^{ドット}となるもれや。いされを聞
け。面^{オモ}も。ね^アちあつて聞^ミえつる。相^{アハ}まは松
のお^{シテ}語^ハや。ず^ハよ^ハち^ハひ置^ハく。ち^ハい^ハあ^ハあ^ハ
昔^{シテ}人の申^ハあつた。い^ハめ^ハでな^ハあ^ハあ^ハの
なりあり。高^コ砂^ハとら^ハよ^ハに^ハ代^ハれ。

万葉集のいふ入の義ニテに吉と申

も。今決ては入るは延喜ニテはさ

本ツレと書ツレまぬ言ツレひ義ニテのシテ今コノ

相ツレ同ツレと御代ミヨにあつたといふあり

よく聞ツレけあつた。今こそ不審

春日ハルノの光ミツもあらぐ西ニテ海ウミのミ

一ツレこゝの江エとて高砂タカサ松マツも

いそそひニテ春も早長閑カトよ上・西海カイ
 浪静ナミヤうスてス國もス作スまるス時ト凡ソレ枝エを
 あアきぬキ代トなりナやヤあアひヒはハ相サのノ松マツ
 をヲめメでデたタちチけケはハやヤ仰オホぎギてテも
 こコもモ思オモやヤあアらラせセよヨあアらラめメるル民タチそソて
 豊ユタカあアるル居イのノ凍コえエがガあアりリかカなナきキくク！
 なナほホくク高タカ砂サのノ松マツめメでデなナらラせセ

毒く序わ借りはクハ地にカケ引ソオひモク来モク心桑
あハとハ申サせサるハ花ハ實ツの時ハとハなハるハも。
陽ヨ春ハにハ德トクをハ具ツへハてハ南ナ枝シ花ハ始ハめハて
同トウくハ出デれハるハ汝ニ松ハにハ其ケ元ハ色シキとハそ
あハるハてハ花ハ葉ハ時ハとハわハるハも。
のハ時ハあハるハも。
深シくハ又ハ松ハ花ハのハ色ハとハ道ハりハもハさハり

つてさうなよりやね枝の言はる草の
露玉心を磨く塵とありてはま
るまけるわがよき東島にげはる
甲子三月廿七
るも然る長能き城はるも有情
非情の具勢はる歌はる事あり
そまが沙風聲水音まで萬物に
心あり春のねはるはる動き秋の

虫の吐露、あゝも清和歌の姿、
ま、仲も、松、萬、本、勝、て、十、
は、狂、ひ、る、秋、に、緑、を、あ、て、た、今、
の色、と、見、ま、て、如、室、の、所、を、あ、つ、る、
は、れ、本、あり、て、異、國、も、本、然、も、
萬、民、と、い、つ、と、賞、翫、す、ヤ、高、砂、尾、上、
の、鐘、の、音、を、あ、り、。一、曉、り、て、雲、の、置、